

10月に創業75周年を迎えるダイワコーポレーション（東京都品川区）。大型物流施設のサブリース開始や自社拠点の建て替えなど先行投資が続いた2025年度を経て、26年度は「復活」をスローガンに掲げる。適正利益の確保と社員のエンゲージメント向上を両輪に、次の成長へ向けた組織づくりを進める曾根和光社長（58）に聞いた。（吉田英行）

「復活」を掲げた。その鍵となるのがエンゲージメントの向上だ。各部3年前から、自社所有で1シメントの向上だ。各部収益性の高かった川崎営業所（川崎市川崎区）の建て替えを始めたほか、大型物流施設のサブリースも複数スタートした。その結果、黒字を維持したものの利益は伸び悩んだ。一方で、多くの社員が信じて付いてきた。だからこそ、適正利益を確保できる体制へ立て直し、社員が安心して働く会社に復活させた。

ダイワコーポレーション社長

曾根 和光氏



「復活」へ適正利益確保

「復活」を掲げた。その鍵となるのがエンゲージメントの向上だ。各部3年前から、自社所有で1シメントの向上だ。各部収益性の高かった川崎営業所（川崎市川崎区）の建て替えを始めたほか、大型物流施設のサブリースも複数スタートした。その結果、黒字を維持したものの利益は伸び悩んだ。一方で、多くの社員が信じて付いてきた。だからこそ、適正利益を確保できる体制へ立て直し、社員が安心して働く会社に復活させた。

部下を信頼し、長所を伸ばせる上司を増やすことが、組織全体の成長につながる。26年度の重点施策は、2月に完成した延べ床面積2万7千平方メートルの千葉相模事業所（千葉県市原市）が本格稼働する。現在リーシングを進めており、年内にはテナントが決まる見込みだ。社員が庫内作業を手がける横浜鶴見営業所（横浜市鶴見区）も貨物量が順調に増え、年内には満床となる見通しで、収益への貢献を期待している。

挑戦する熱意受け止め



は、26年8月末時点でゼロ。人材は会社にとって最大の財産だ。外部講師による階層別研修も充実させ、現場の問題解決につながる実践的な教育を続けていく。

そね・かずみつ 1988年2月生まれ、東京都出身。90年慶応義塾大学経済学部卒業。92年ダイワコーポレーション入社。2001年専務、11年10月から現職。13年から2年間、倉庫業青年経営者協議会会長を務めた。

年4月入社に向けても既に内々定を出し始めており、現在は早期の内定辞退を防止するためのフォロー体制の強化に注力している。入社1～3年目の離職率を、若手社員からの提案で作業服を全量リニューアルする。デザイン性に加え、動きやすさと耐久性を両立させたものを目指しており、27年4月までに全社員へ展開する予定だ。1月の新年会では75周年記念式典を兼ね、新しい作業服も披露したい。